豪雪の飯山で雪まみれ!!
スノーアクティビティツアー

一般社団法人信州いいやま観光局
大西　宏志

モニターツアー実施概要

- 本講座を受講している受講生が、実際に商品を造成。今回はなべくら高原・森の家での冬の体験商品が実践研修場所として選定され、平成31年1月21日～22日にかけて、1泊2日で障害者3名、受講生など23名で実施した。

1日目	行　程
9:00	信越自然郷アクティビティセンター集合(飯山駅構内)
10:00	戸狩温泉スキー場でデュアルスキー体験
15:00	なべくら高原・森の家　チェックイン
17:00	いいやま湯滝温泉入浴、郷土料理の夕食

2日目	行　程
9:00	なべくら高原・森の家にてスノーシュー体験
12:30	かまくらの里で昼食
15:30	飯山駅にて解散

集合場所は飯山駅

信越自然郷アクティビティセンター

デュアルスキー体験

スノーシュー体験

宿泊は森の家コテージにて

夕食と入浴は湯滝温泉

かまくら体験

ツアー実施時の課題①

- プログラムを詰め込み過ぎていた点。当事者と介護者が無理の無い範囲でプログラムをこなせるスケジュールを組み立てる必要があり。むしろ綿密な時間設定をしない方が良い
- アクティビティ、特にスノーシューは介助者が複数名3名以上必要と感じた。障害者の家族にそこまで協力を依頼することが可能なのか。
- 受入や介助に対して、通常よりも多くの時間や労力が必要と感じた。実際にツアーにした場合、この分の料金はどのように考えれば良いのか。
- 介護タクシーの手配(今回はモニターツアーだったが、実際のツアーの場合事業者が少なく、希望時間での予約が難しい)
-

ツアー実施時の課題②

- フィールドに出てしまうと気象の変化に対して対応が遅くなる。スタート前にあらゆる想定をし、準備をした上で出る必要があると感じた
- 一般のお客様の対応と重なると十分なサポートができなくなってしまう恐れあり
- ツアー商品にした際の費用（特にガイド謝金や機材を含めると非常に高額になる）
- ツアーをスムーズに進行させるためには、飯山市および受入施設全体がユニバーサルツーリズムへの認識を持ち、受入協力体制を構築することが重要

ツアーにどのような視点が必要だったか・・

- 対象者の状態・ニーズを事前に把握する
- 各受入施設でしっかりとした共通認識を持つ
- 障害当時者の目線になる（ガイド時に当事者と介護者、ガイドと見えている景色が違うということを忘れがち）
- 障害者だからできない、障害者だからこれはやめておいた方が良いと単純に考えるのはなく、どうすれば健常者と同じように楽しむことができるのかを考えることが必要

ユニバーサルツアー商品化

今後の展望や課題

- まだまだ受入には不安があり、とにかく繰り返し受入を行うことで、スキルを高めて行くことが必要
- まずは飯山市内でユニバーサルツーリズムに対する認識を深めてもらい、事業者との協力体制を構築
- 宿泊施設のハード整備(バリアフリー化)、機材の整備等を実施。またそれらの機材を扱うことのできる人材の拡大
- ユニバーサルツーリズム旅行商品を四季を通じて造成し、販売、受入、評価を行うこと
- 最終的には信越自然郷エリア全域、長野県全域まで波及することで、ユニバーサルツーリズムのメッカとして認識されること
-